令和４年度　授業改善推進プラン　　成果と課題

教科（　社 会　）　　学年（　１ 学 年　）

目指す授業

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する授業。

授業・アンケート等の課題分析

７月実施の授業アンケートでは、「社会の授業はわかった、できたと感じる機会があり分かりやすい」いう問いに肯定的な回答が 85.7%であり、学習習慣が定着しておらず定期考査前に勉強不足の焦りや不安を訴える生徒も複数見られた。積極的に授業に取り組む生徒が「わかる・できる」実感を持つことができる授業を行うことを課題とした。

成果と課題

成果

授業において画像や映像教材を活用し、さまざまな面から生徒の関心や意欲を引き出す工夫を行った。また、教科書等の表記を参考にしながら、事象について説明する練習を行い、読解力・表現力を向上させた。授業の振り返りを行い、学んだ内容を自分の言葉で説明する時間を毎時間設定した。総合的な学習の時間（国際理解教育）と地理的分野の教科横断的学習により、生徒の興味や関心を高めた。

授業アンケート結果（１２月実施）によれば、「社会の授業では、他者の考えや思いを取り入れ、自分の考えを広げ深めることができている」という問いに 94.8%の生徒が肯定的に回答した。また、同アンケートによれば「社会の授業はわかった、できたと感じる機会があり分かりやすい」という問いに 87.1%(7 月比 1.4%増)の生徒が肯定的に回答した。

課題

冬休みに第２回・第３回定期考査の復習を課題とし、１月に確認テストを実施したところ、90%以上の達成率の生徒は８名（19.5%）、平均点は 67.6 点であった。定期考査と全く同じ問題からの出題であるが、定着度は予想を下回る結果であり、学習への意識や基本的な学力の定着に課題がある。また、今後は授業でより一層の「学ぶ楽しさ」を感じる生徒を増加させることを目指す。

令和４年度　授業改善推進プラン　　成果と課題

教科（　社 会　）　　学年（　2 学 年　）

目指す授業

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する授業。

授業・アンケート等の課題分析

授業アンケート結果（7 月実施）によると、「社会の授業に積極的に取り組んでいる」という問いに肯定的な回答をした生徒は 73.6%、「社会の授業はわかった、できたと感じる機会があり分かりやすい」という問いに肯定的な回答をした生徒は 78.9%であった。毎時間記入する授業振り返りシートへの取り組みも、面倒くさい・やりたくない等の理由で内容の記入が乏しい傾向にある。小テストや定期考査の得点が伸び悩む生徒も多い

成果と課題

成果

毎時間記述する振り返りシートの内容を、記述するだけで終了せず内容を発表し共有するなどして理解を深めた。他者に説明することを通して知識や思考力を高める目的で、地理的分野においてミニプレゼンテーションを作成し発表会を実施した。副教材を活用して問題演習を行い、得点力の強化を目指した。その結果、進んで副教材に取り組む生徒や、学習内容の発表の際に挙手をして意欲的な姿勢を見せる生徒が増加した。また、12 月実施の授業アンケートでは、「社会の授業では他者の考えや思いを取り入れ、自分の考えを広げ深めることができている」という問いに 96%が肯定的に回答し、「社会の授業はわかった、できたと感じる機会があり、分かりやすい」という問いにも 84.0%が肯定的な回答（7 月比 5.1%増加）をした。

課題

学習に向かう姿勢は年度当初よりも大幅に改善したが、基本的な学習習慣や学力の定着には未だ改善の余地がある。今後は生徒がより深く思考し、対話し、深く学ぶ授業を行うため、確かな学力の向上を目指して効果的な資料の活用や生徒が取り組む課題等を工夫する。

令和４年度　授業改善推進プラン　　成果と課題

教科（　社 会　）　　学年（　3 学 年　）

目指す授業

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する授業。

授業・アンケート等の課題分析

授業アンケート（7 月実施）によれば、「社会の授業に積極的に取り組んでいる」という問いに 28 名の生徒は肯定的に回答していたが、「社会の授業で学ぶ楽しさを感じる」という問いに肯定的に回答していた生徒は 24 名であった。夏の時点で生徒同士が意見を共有することはできる（自分の考えを発表し合う）が、互いの意見に質疑を交わして深め合うまでには至っていなかった。互いに説明や質問をすることにより理解が深まると考え、授業においてそれらの機会を積極的に増やした。

成果と課題

成果

授業アンケート（12 月実施）等によれば、「社会の授業で学ぶ楽しさを感じる」という問いに肯定的に回答する生徒が増加した。同アンケート「社会の授業では、他者の考えや思いを取り入れ、自分の考えを広げ深めることができている」という問いに全員が肯定的に回答している。公民的分野においては、学習の土台に SDGｓを意識しながら学習を継続してきた結果、多くの生徒が社会事象の持続可能性についてグローバルな視点とローカルな視点から捉えることができるようになった。

課題

SDGｓを軸として現在社会の問題点や国際社会の抱える課題などのテーマを学習してきた過程で、紛争、暴力、災害、感染症、人権侵害や貧困、地球環境問題などの解決が難しいテーマに「学ぶ楽しさ」を感じさせるのは困難もある。そのような中でも、生徒が学び合うことによって自分の考えの深まりや広がりを実感し、学ぶ楽しさを全員が感じることのできる授業展開を工夫することが課題である。さまざまな資料を用いて関心を高め、学び続ける姿勢を育てる。